



〔海の状況 (6/16~7/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて神子平年並み(平年差±0.5℃)から神子平年よりはなはだ高め(平年差1.5℃~)で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて平年よりやや低め(平年差-1.0℃~-0.5℃)から平年よりやや高め(平年差0.5℃~1.0℃)の間で推移した。(図2)

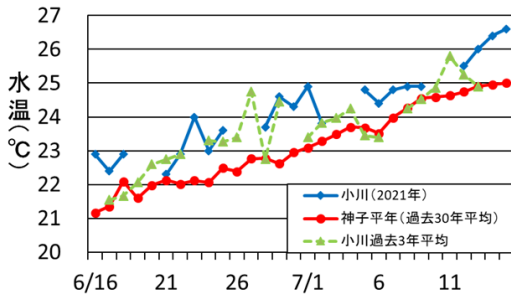


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2018年~2020年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

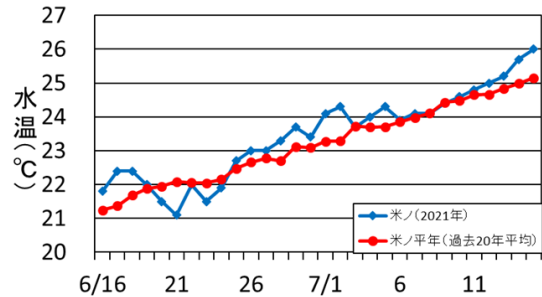


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：6月〕

6月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0m)では、若狭湾沿岸で20℃~22℃と前年より水温が高くなっていった。水深50mでは、若狭湾沿岸で16℃~20℃と前年同様であった。水深100mでは、若狭湾で16℃~18℃と前年同様であった。水深200mでは、若狭湾沖で前年より6℃以下の範囲が大きくなっていった。(図3)

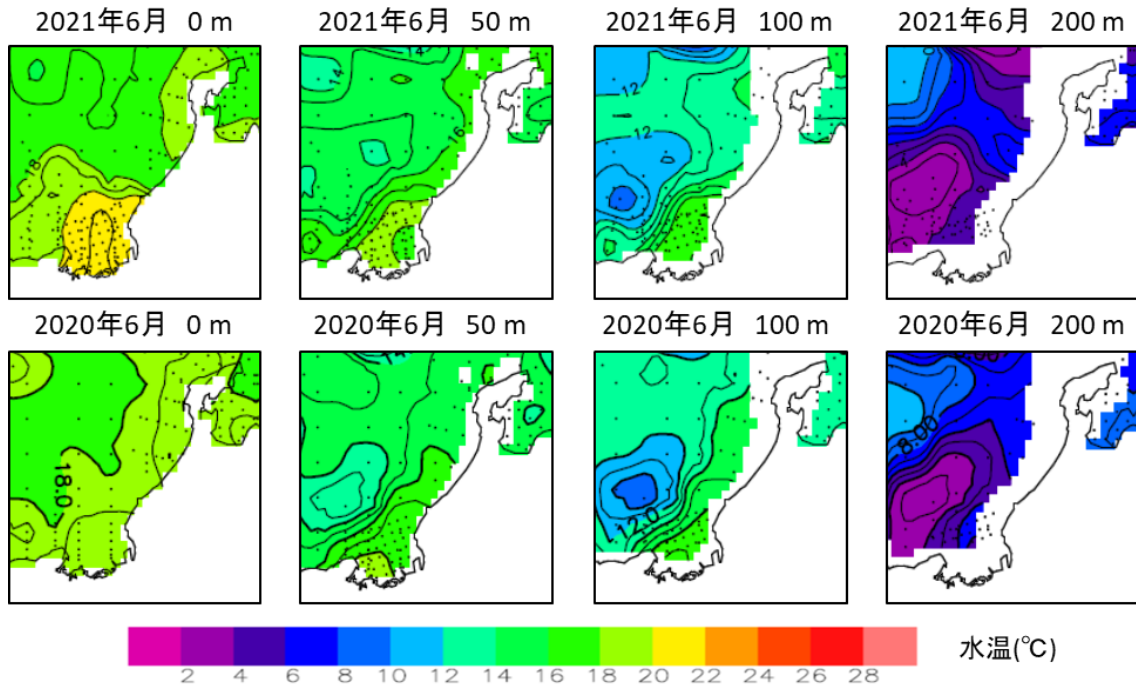


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

スルメイカの漁模様

今年の6月は福井県沿岸でスルメイカの漁場が形成され、県外からも多くのイカ釣り船が操業にきました。6月のイカ釣り漁法による漁獲量は281tと前年(230t,対前年比122%)および平年(2010-2020年の10年平均)(150t,対平年比187%)を上回りました。

2019年および2020年は今年同様6月に200t以上のまとまった漁獲があり、8月～9月まで漁獲が続きました。今年は何れだけ漁獲が続くか注目していきたいと思います。(漁場環境グループ 長島 拓也)

〔県内の漁模様：6月〕

2021年6月の県内の総漁獲量は1,300tで、前年同月を200t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は889tで、前年同月を249t下回った。サバ類、アジ類、シイラ等は上回ったが、ブリ(ブリ銘柄、ツバス銘柄)、トビウオ等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は40tで、前年同月を12t下回った。その他エビ、タコ類等は上回ったが、アカエビは下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は370tで、前年同月を60t上回った。サザエ、アナゴは下回ったが、スルメイカ、タコ類、ケンサキイカ等は上回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(6月)

定置網 (kg)						底びき網 (kg)					
魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差	魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
マイワシ	6,200	516	977	5,684	5,223	タコ類	345	215	420	130	-75
ウルメイワシ	5,942	0	66	5,942	5,877	アカエビ	36,197	48,605	44,422	-12,409	-8,225
カタクチイワシ	3,299	9,856	7,887	-6,557	-4,588	その他エビ	3,241	2,335	3,689	906	-448
アジ類	167,705	108,659	150,537	59,046	17,168	その他	369	505	13,106	-137	-12,737
サバ類	240,944	25,678	37,532	215,266	203,412	合計	40,151	51,661	61,637	-11,509	-21,485
カツオ類	1,255	7,083	2,886	-5,828	-1,631	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
ブリ 銘柄計	80,397	525,762	303,807	-445,365	-223,410	魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
(ブリ)	28,762	316,599	108,628	-287,837	-79,866	マダイ	1,706	868	2,195	838	-489
(ワラサ)	4,063	10,478	21,364	-6,414	-17,300	キダイ	7,579	7,513	6,578	66	1,001
(ハマチ)	5,507	26,494	33,319	-20,987	-27,812	アマダイ	4,111	3,220	3,851	892	260
(ツバス)	41,760	171,801	140,408	-130,041	-98,648	スズキ	2,206	943	3,653	1,262	-1,447
(アオコ)	304	390	88	-86	216	アナゴ	1,375	1,457	2,868	-82	-1,492
ヒラマサ	808	2,088	6,169	-1,280	-5,361	メバル類	1,820	1,267	3,711	553	-1,891
シイラ	29,450	11,036	3,580	18,414	25,870	カワハギ類	2,352	2,337	3,369	15	-1,017
サワラ	176,146	192,997	159,617	-16,851	16,529	スルメイカ	280,585	230,013	132,307	50,572	148,279
トビウオ	78,158	183,586	161,315	-105,429	-83,157	ケンサキイカ	3,197	1,631	1,853	1,566	1,344
マダイ	4,223	3,792	8,800	430	-4,577	タコ類	34,954	32,090	34,907	2,865	47
クロダイ	946	769	1,371	177	-425	サザエ	8,992	10,588	14,618	-1,596	-5,626
スズキ	13,912	5,417	9,023	8,495	4,889	アワビ類	2,586	2,326	1,937	259	648
カマス	1,294	2,190	5,797	-895	-4,503	その他	18,640	16,053	49,128	2,586	-30,488
フグ類	2,120	1,425	7,014	695	-4,894	合計	370,104	310,307	260,973	59,797	109,131
スルメイカ	9,486	2,168	10,012	7,318	-526	全漁法 (kg)					
アオリイカ	2,782	2,528	832	254	1,950	魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
ケンサキイカ	41,649	35,099	14,778	6,550	26,872	合計	1,299,531	1,499,882	1,237,508	-200,352	62,022
その他	22,559	17,267	22,898	5,292	-339						
合計	889,275	1,137,915	914,898	-248,640	-25,623						

※1 平年の値は2011-2020年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 ニギスの平年値は2015-2020年の6年平均です

※4 カワハギ類、サザエ、アワビ類の平年値は2014-2020年の7年平均です。

※5 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：6月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：6月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：6月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：6月中旬～7月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マアジ11.9t、サバ7.4t、フクラギ・コゾクラ4.4t、トビウオ3.3t、ブリ3.0t

京都府…定置網…サワラ類5.5t、サバ類3.1t、ケンサキイカ1.4t、マアジ1.4t、トビウオ1.0t、スズキ0.8t

兵庫県…定置網…マアジ110kg、シロイカ81kg、ツバス60kg、トビウオ42kg、スズキ41kg、サバ22kg

鳥取県…まき網…マイワシ34.4t、ウルメイワシ4.4t、マアジ2.5t、マサバ0.8t、ブリ類0.6t

(漁場環境グループ 長島 拓也)

2021年度スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海側の各試験研究機関によるスルメイカ漁場一斉調査が、6月下旬から7月中旬にかけて行われましたので、その結果についてお知らせします。

(1) 福井県の調査結果(表1)

福井県沖合の4定点(図1)において、釣機6台を用いて毎晩20時～4時の8時間釣獲試験を行いました。

- 漁場水温・調査海域の表面水温は21.5℃～23.9℃(2020年:20.3℃～23.0℃)、50m深水温は6.9℃～17.3℃(同:11.2℃～16.3℃)でした。
- 釣獲結果・総釣獲尾数は26尾(2020年:44尾)、CPUE(釣り機1台1時間あたりの釣獲尾数)は0.02尾～0.30尾(平均0.20尾)でした。
- 体長組成・釣獲されたイカの外套背長(胴の長さ)は、10cm～13cmが主体でした。

表1 調査点およびスルメイカ釣獲調査結果

月日	6月28日	6月29日	6月30日	7月1日
調査位置	N36° 39'	N37° 59'	N37° 39'	N36° 58'
	E134° 57'	E135° 01'	E135° 40'	E135° 36'
釣獲匹数	8	1	7	10
CPUE	0.30	0.02	0.16	0.30
平均外套背長(cm)	10	11	12	11
表面水温(℃)	23.20	21.50	22.20	23.90
50m深水温(℃)	17.25	6.90	16.28	15.46
標識放流匹数(匹)	0	0	0	0

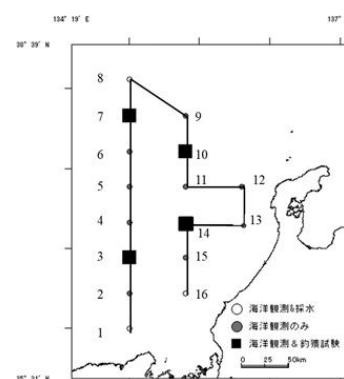


図1 スルメイカ釣獲調査点

(2) 日本海全体の状況(図2)

水産研究・教育機構の取りまとめによると、全調査地点におけるCPUEの平均は5.48尾で、前年(14.32尾)を下回り、近年平均(10.98尾)の約50%でした。

本州北部日本海では、外套背長15cm台～18cm台の個体が中心に採集され、CPUEは24尾が最大でした。

本州西部日本海では、外套背長12cm台～22cm台と幅広いサイズの個体が採集され、CPUEは隠岐北西の15尾、福井県沖の8尾(水産研究・教育機構の調査船による調査結果)の他は4尾を下回り、漁獲のない点もありました。

沖合域では、外套背長18cm台～20cm台の個体が中心に採集され、CPUEは北緯41度20分、東経137度40分(図2参照)の点で143尾が最大でした。今年は、例年CPUEの高い大和堆周辺では低く、大和堆から北東に外れた沖合域で高い傾向にありました。

今後の見通しとして、西部日本海では、来遊量は前年および近年平均(過去5年平均)並みであり、8月まで漁場が継続しますが10月～12月は漁場が形成されにくいとされています。沖合域の来遊量は、前年および近年平均を下回ると予想されます。漁場は、北海道西沖では形成されにくく、大和堆周辺海域では形成されても安定しないとされています。

今回の調査では、各試験研究機関でスルメイカの標識放流を実施しています。標識の付いたスルメイカを再捕されましたら水産試験場までご連絡をお願いいたします。

(漁場環境グループ 長島 拓也)

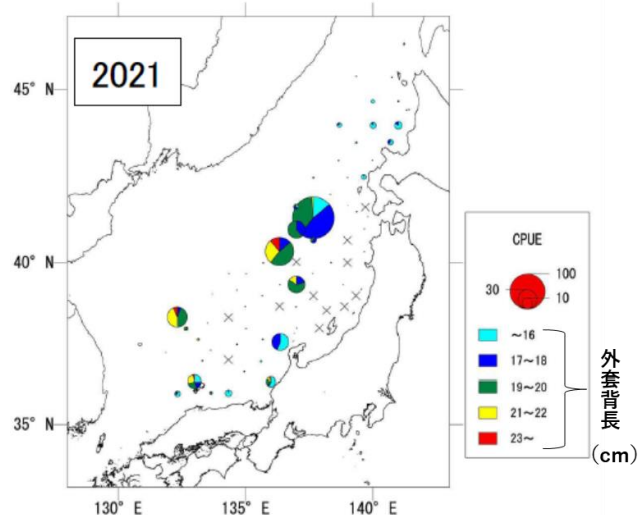


図2 日本海におけるスルメイカ分布